

平成24年4月教育委員会会議の要旨

議 案

議案第1号『山口県教育委員会表彰規則による表彰について（報告承認）』

【概要】

山陽小野田市立埴生中学校校長 ^{すえたけ}末武 ^{ひろし}博 の早期退職に伴い、教育長が臨時に代理して永年精勤として表彰したことを報告し、承認された。

議案第2号『山口県教科用図書選定審議会に対する諮問について』

【概要】

標記の審議会に対し、義務教育諸学校において平成25年度から使用する教科用図書選定に関する採択の基準及び採択関係者に提示する選定に必要な資料について諮問することについて審議され、承認された。

報 告 事 項

◆『平成24年度全国学力・学習状況調査の概要』について、報告された。

【概要】

平成24年4月17日（火）に実施された平成24年度全国学力・学習状況調査について、報告したもの。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年

3 調査実施校数

	抽出対象校数	希望利用校数	実施校数
小学校	98校（31.6%）	212校（68.4%）	310校（100%）
中学校	80校（50.6%）	78校（49.4%）	158校（100%）
合 計	178校（37.2%）	290校（62.8%）	468校（100%）

※ 調査対象児童生徒数 小学校12,476人 中学校12,321人 合計24,797人

4 調査内容

(1) 児童生徒に対する調査

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）※ 今年度は理科が追加
 - ・主として「知識」に関する問題
 - ・主として「活用」に関する問題
- ② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

5 問題について

【小学校国語】

- ・基礎的・基本的な事項の定着を幅広く問う出題傾向。
- ・発表を聞いて質問の内容を考える問題、取材したことをもとに学校新聞の記事を書く問題、手紙の内容や形式に関する問題、インタビューするための話合いに関する問題など、実際の学習場面を想定した問題が多く出題。
- ・グラフや雑誌などの資料から必要な情報を読み取り、根拠を明らかにして自分の考えを書くなど、自分の伝えたいことを表現する能力を見る問題が出題。

【小学校算数】

- ・基本的な内容が確実に定着しているかを問う問題、グラフや図から読み取って考える問題などが出題。
- ・5日間にとれたトマトの数から1日の平均を求める問題等、新学習指導要領で追加された内容が出題。
- ・日常生活や他教科との関連の場面で算数を工夫して用いるよさを実感させる問題が出題。

【小学校理科】

- ・新学習指導要領における4本の柱である「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」から複数学年の学習内容を盛り込んだ大問が1題ずつ出題
- ・「ゴムの働き」など、新学習指導要領で追加された内容から多くの出題。
- ・自然に親しむ活動を踏まえた問題や、観察・実験の結果を整理し、考察する問題など観察・実験を中心とした問題解決に取り組む学習過程の中から出題。
- ・理科を学ぶことの意義や有用性を実感させるために、実生活と関連する問題が出題。

【中学校国語】

- ・手紙やはがき、スピーチ原稿の書き方、ローマ字表記、漢和辞典の活用など、社会生活に必要な基礎的・基本的事項を問う問題が幅広く出題。
- ・説明書などの資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報を活用して書き

出す問題や、読み取った内容をもとに根拠や理由を明確にして自分の考えを書き表すなど、表現する能力を見る問題が、これまでと同様に出題。

【中学校数学】

- ・知識や技能を直接問う問題だけではなく、方程式を解く際の等式の性質の理解や、証明の意義の理解を問う問題など、これまでの調査で課題が見られた内容の問題が、引き続き出題。
- ・地球の周りの軌道やスキージャンプ、木の高さの測定などについて、数学で学んだ知識や技能をさまざまな事象に活用する問題が出題。
- ・自らの判断で解答を選択し、選んだ理由を数学的な表現を用いて説明する正答が一つとは限らない問題が出題。

【中学校理科】

- ・新学習指導要領における4本の柱である「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」からそれぞれ大問が1問ずつ出題。
- ・「知識に関する問題」と「活用に関する問題」のいずれも日常の生活や新聞記事等身近な場面から問題を見だし、観察や実験を通して、科学的に探究することで、課題を解決する学習活動を重視した出題傾向。
- ・記述問題については、条件に沿って記述する問題や、解答を選択し、その理由を記述する問題等が出題。

6 児童・生徒質問紙問題

これまでの調査で明らかになった就学前の様子や、家庭での生活習慣・学習習慣・授業中の態度などの一部が削除され、新たに人とのかかわりの経験や、理科の学習や問題に関することが加わった。

7 学校質問紙調査

これまで把握してきた施設・整備、開かれた学校に関する内容、コンピュータの活用など他で調査が行われる項目が削除され、新たに理科の指導に関する項目や、小中連携に関する項目が加わった。

【主な意見】

- 全国学力・学習状況調査の結果と体力テスト等との結果の分析をあわせて行うことにより、学力向上に対する取組に幅の広がりが出るような取組を展開できるのではないか。

【質 疑】

質問) 平成24年度から全国学力・学習状況調査に理科が追加されたが、英語など他の教科についても今後追加されていくのか。

回答) 理科の追加については、国の議論において決定されており、他の教科についても今後議論がなされるものと思われる。

◆『平成24年3月新規高等学校卒業生求人・求職状況等』について、報告された。

【概要】

平成24年3月末時点の新規高等学校卒業生に係る求人・求職状況を山口労働局のデータから分析・報告したもの。

《主な内容》

- 求人数は、昨年同期と比べ641人減の4,511人、就職希望者は82人増の3,103人。
- 就職内定率は、昨年同期より0.7ポイント上昇し、99.0%。
- 未内定者数は、32人と昨年同期より20人減である。

《平成24年度の就職支援対策》

「ガイダンスの充実」

- ・「就職ガイダンス」により雇用状況の把握、県内企業及び職種理解を図る。
- ・高校生就職支援チーム等のキャリアカウンセラーの活用。
- ・県内就職支援員を未内定者の多い学校に配置（9人）。

「求人開拓の強化」

- ・緊急求人開拓員の配置（8人）。
- ・就職指導専門員による求人開拓（27人）。
- ・企業訪問推進事業（校長、教頭、教員による求人開拓）。

「マッチングの促進」

- ・就職内定に至らない高校生を対象に県内各地で就職説明会を実施。

「関係機関との連携」

- ・山口労働局、ハローワーク、若者就職支援センター、県商工労働部、総務部学事文書課等との連携。
- ・高校生緊急就職対策プロジェクトチーム会議の開催。

【質 疑】

質問) 卒業生のうち未内定者への学校側の支援はどのくらいの期間行う予定か。

回答) 一昨年の未内定者は、昨年度一年間で就職先などの進路が決定した状態になっている。未内定者に対して、支援の期間を明確には決めていないが、未内定者と学校や関係機関とがつながりをつくり、学校としては主に卒業後の1年間に情報提供等の支援を積極的に行っていく。また、1年間で進路が決まらない卒業生に対しては、引き続き関係機関と連携し、支援をしていく。

質問) 就職後3年以内の離職率は、どのような状況か。

回答) 平成20年3月の卒業生の卒業後3年間の離職率は、本県では32.4%、全国では37.6%であり、離職率は低下傾向にある。

- ◆『平成24年度山口県公立高等学校入学者選抜のための学力検査得点状況』について、報告された。

【概要】

平成24年度入学者選抜実施状況の概要と、平成24年3月8日（木）に実施された標記の学力検査の結果について報告したもの。

《主な内容》

- 実施教科：国語、社会、数学、理科及び英語
実施時間：各教科とも50分
配点：各教科50点満点、計250点満点
- 「得点合計」の平均点は131.4点（最高237点）
- 各教科別の平均点 国語：28.9点、社会：24.8点、数学：24.8点
理科：27.4点、英語：25.5点
- 全日制課程入学定員は8,615人、推薦入学合格者は2,120人。一次募集の定員6,495人に対して8,137人が志願し、7,912人が学力検査を受検し、第一次募集の合格者は推薦入学合格者を含めて8,194人となった。第二次募集は、421人の定員に対して197人が志願し、最終的に103人が合格。よって全日課程における全体の合格者数は8,297人。
- 定時制課程は、定員600人に対して第一次募集で207人が志願し、189人が受験し、126人が合格。第二次募集は、474人の定員に対して92人が志願し、44人が合格。よって定時制課程における全体の合格者数は170人。

《出題の概要》

- 基礎的・基本的な内容と応用的な内容について、均衡を図って出題。
- 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をみる問題を重視。
- 受験生の興味や関心などが生かされるよう、例年どおり全教科にわたり選択問題を出題

《結果の総評》

- 各教科とも基礎的・基本的な事項に関する問題については、平素の学習の成果がよく表れていた。
- 資料や表・グラフから分かったことをまとめて適切に表現する力をみる問題や、論理的に考えたり柔軟に思考したりする力をみる問題については、さらに努力が必要な状況がみられた。
- 今後とも、学習内容と生活場面・実社会との関連を考えながら学習することにより、学習に対する興味・関心や有用感をもつことが必要である。また、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をさらに身に付けていくことが大切である。

【主な意見】

- 過去10年間の学力検査得点状況の結果の分析を行い、中学生の学力向上の推移状況の指標として活用を検討してほしい。

【質 疑】

質問) 学力検査得点状況について、各中学校別に分析し、各市町教育委員会や各中学校にその結果を配布するなどは行っているか。

回答) 各学校別の分析は行っていない。参考資料として「学力検査の結果及び今後の学習指導に向けて」を各市町教育委員会や各中学校に送付しており、各中学校において学習指導に活用されている。